一般的なベントグリーンは、9月にどのような状態になるか？

- 6月から衰退を始めた根部は最も弱っている
- 見た目は良くても貯蔵養分はほぼ果たし、必死に耐えている状態
- 芽数は一年を通じて最も減少しており、藻の侵入も目立つ
- 場所によっては乾燥害、病害によるダメージがでている

9月のベントグラスの生育環境は？

- 夜温は下がってくるが地温はまだ高い
- 根や土壤微生物の呼吸によって土壌中の酸素濃度は低い
- 台風や長雨の影響により水分過多状態になりやすい
- 急な暑さのぶり返しにより、最高気温が35度を超える日もある
9月のベントグリーンの管理のポイント

更新作業は慎重に
新根の発根を確認したら、軽めのスパイキングから始めましょう。

肥料は液肥の少量多回数散布を継続
窒素の量はまだ控えめに抑えでおきましょう。
リン酸、カリウム、マグネシウムを中心に、状態によってはアミノ酸資材も活用を。

ダメージを受けた部分は差し替えや播種で回復を

ビシウム病、炭疽病には引き続き警戒しつつ、
ダラースポットにも注意
細菌病の発生圧も高まるので、不明な病状があった場合はすぐに病害診断を依頼してください。

散布量は徐々に減らしていく
ただし、根の長さと壤水分量を確認しながら減らしましょう。
減らすぎると乾燥害が発生することもあるので注意が必要です。
実は9月は乾燥害発生が最も多い時期のひとつです。

目砂は散水で落とせる量で
厚目砂をするにはまだ早過ぎます。
ブラシでスリ込んで茎生を傷つけないように注意しましょう。

インターフェードを行う場合は、
既存の若生の芽数が最も減少している9月が適期

グリーン対策を求めて
刈高を下げ過ぎないように注意

バイエルがおすすめする殺菌剤

- 茎生を中から守る
  シグネチャーWDG
- 炭疽病と葉類の予防に
  プロテクトメイトWDG
- 幅広い病害の予防に
  デディケートフロアブル
- ダラースポット対策に
  インタフェースフロアブル

TOPICS 9月は翌春のシバットガの発生を抑制する殺虫剤散布適期です！

- 9月に卵からかえった幼虫は、幼虫の状態で冬を越します。この幼虫の数を減らしておきることで、来年の虫害の発生を抑えられることが可能です。

ベントグリーンの管理において9月はスタートの月です。
来年のグリーンコンディションをイメージしながら、施肥薬計画、更新作業計画を立てましょう。